

科目認定についての考え方（Q&A）

Q：科目認定について、過去へ遡れるのか？

A：過去に遡れます。同じ担当教員と教育内容の場合は、可能な限りさかのぼり認定される可能性があります。

Q：科目認定は、科目名で判断するのか？ それともシラバスの中身で判断するのか？

A：シラバスにより判断することを基本とします。ただし、シラバスは絶対的なものではなく、当該科目が要件を満たすことを説明できる他の資料を参考にすることもあり得ます。科目名も、認定のための積極的な参考資料の一つとなり得ます。

Q：シラバスの認定およびチェックは、誰が行うのか？

A：この制度の発足により設けられる地域調査士認定委員会（認定委員会）が審査を行い、（社）日本地理学会が認定します。

Q：一つの科目を複数に分けることはできるのか？

A：分かりやすく、複雑すぎない制度という見地から、科目ごとに認定科目かそうでないかを仕分けざるを得ませんので、一つの科目のある一部だけを取り出すというようなことはできません。ただし、次に説明する、二つ以上の科目の組み合わせということは、可能です。

Q：二つの科目を組み合わせて一つの認定科目とすることはできるのか？

A：二つ以上の科目を組み合わせ、それら全ての科目を履修することにより一つの認定科目の履修と見なすことができるという制度になっています。例えば、「〇〇学 A（2 単位）」と「〇〇学 B（2 単位）」の二つの科目を履修することにより、一つの認定科目（2 単位以上）を履修したと見なすということです。この場合、一つの認定科目について、通常は 4 単位以上の学習をすることになり、地域調査士の資質という観点からは、むしろ好ましいことであるともいえます。従って、この規定は例外的に適用されることが期待されているものではなく、広く活用することが期待されている規定です。認定申請書には、組み合わせる科目名を記載する欄を設けていますので、該当がある場合は、そこへ記入をしていただくこととなります。

Q：科目認定の実施時期はいつなのか？

A：審査を行う地域調査士認定委員会は、現在のところ年に 4 回程度開催します。委員会開催日に合わせ申請書類等の締め切り日が設定されます。これらはいずれもホームページ上でお知らせします。

Q：コアキーワードは5項目すべてが入らなければいけないのか？

A：ある認定科目において必ず教授しなければならないものを「コアキーワード」と定義していますので、これは全て揃っていなければなりません。コアキーワードの数は、認定科目ごとに5個を標準としていますが、換言すれば、科目によっては5個より多い場合も少ない場合もあり得ます。コアキーワード・選択キーワードというシステムの意義については、既に述べたとおりです。一般に資格制度は、ある人間のある種の資質が一定レベル以上であることを保証するものです。地域調査士制度は、地域調査士として認定された者は、その者が受けた大学・大学院における教育という面に関しては、コアキーワードに相当する学問の素養は必ず身につけていること、選択キーワードに相当する学問については、内容に多様性はあるものの必ず一定量以上の素養を身につけていることを保証するものであるということをご理解いただきたいと思います。

Q：「〇〇実習」、「□□学」という同一名称の科目を複数の教員が担当し、学籍番号等で機械的に振り分けている科目があります。これらを認定科目として申請する場合、シラバスは教員分すべてを揃える必要がありますか？

A：共通内容による授業の場合、複数の教員名を連記した1つのシラバスでかまいません。なお、教員ごとにシラバスを提出される場合は、それぞれのシラバスが個別に審査されることになります。